

一 般 質 問

Q インフルエンザ予防接種費用助成の考えは？



西 議員

一、町は高齢者のインフルエンザ予防接種費用の一部を公費で助成しているが、今後、乳幼児から18歳未満の子育て世帯への助成をする考えはあるか伺いたい。

A 任意接種による健康被害の救済制度の有無を確認し検討したい

町長 関 次雄

一、高齢者のインフルエンザ予防接種は、予防接種による副作用・副反応により、健康被害を受けた場合の救済制度の対象になるため実施をしている。

乳幼児については、予防接種法に基づかない任意の接種であり、ワクチンの有効性や接種による副反応などの問題視から、保護者の判断において予防接種を受けていただいている現状である。

子育て世代においては大変負担も大きく、また受験生を抱えている家庭においても、インフルエンザによる重症化が不安視されるものと考えている。

町としても今後、接種体制や公費負担の可能性、または任意接種による健康被害の救済制度などを十分検討した上で、早急に対応できるよう前向きに体制を整えていきたい。

Q エゾシカ・アライグマの農業被害対策について



前崎 議員

一、エゾシカについては電気牧柵が設置されているが、老朽化してきている。

特定外来生物でもあるアライグマも増加傾向にある。

電気牧柵の更新に対する助成と、アライグマの駆除方法について伺う。

A 農協と協議し、農業者の協力を得ながら進めてまいりたい

町長 関 次雄

一、電気牧柵については、平成20年から3ヶ年で総延長3.6キロメートルの整備を完了したところであり、更新助成については、電牧線の損傷実態を把握した上で検討したい。

エゾシカについては、猟友会の協力を得て30頭を駆除し、来年度以降も継続してまいりたい。

アライグマの駆除については、北海道アライグマ防除技術指針に基づき、箱わな設置の有資格者の養成と、箱わなの増加に努めたい。

町独自で駆除を行うのは困難なので農協とも協議し、農業者の協力を得て資格を取得していただき、捕獲をお願いし、その後の処分については町が責任を持って行うというように進めてまいりたい。